

# 国立大学法人下におけるFDからUDへの転換

吉田雅章

和歌山大学経済学部

## はじめに

平成16年4月より国立大学法人の制度がスタートした。行政改革の一環であって、実質的には国の経費削減が最大の狙いと思われる。従来より少ない予算しかない状況下で、国立大学法人は教育研究の更なる発展を進めなければならない。近時の大学教育分野で活発に取り組まれているFD(ファカルティ・ディベロップメント)においても、以前より少ない予算でその進展を図るべく努力しなければならない。和歌山大学では、従来は旧文部省から受けたFD推進経費や大学特別経費・学長裁量経費などでFDの進展を企図してきたが、今年度認められたのは学長裁量経費のみで、その額も平成11年度以降の6年間の中では最低となっている。そのような中で、公開授業&検討会、学生による授業評価、報告会やフォーラムのような単発的イベント等に取り組み、全学にFDを定着させ、学長提唱の新造語“UD(university development)”への転換を目指す計画を立てている。以上に関して、過去の分析と今年度の活動ならびに問題点を報告したい。

## 従来のFD活動－過去の分析

全学的組織としては、FD研究会(平成10年度)とFD推進委員会(平成11～15年度)とが存在し、当初は他大学等の情報を収集・分析し、他大学から講師を招聘したが、徐々に自前の活動へと転換していった。具体的には、イベント物(田中毎実京大教授の用語に従えば「お祭り」)として、2回のFD講演会とFDワークショップ・FDシンポジウム・FD報告会に、4回のFDフォーラムなどを開催した。継続的な活動としては、50回の公開授業&検討会の開催と平成10年度から毎年度末に作成した和歌山大学FD報告書とがある。学生による授業評価は、和歌山大学における専門教育科目(各学部が担当する)と基礎教育科目(大学基礎教育委員会が担当する)との大別化のために、FD推進委員会として積極的には関与・介入することは敢えてしなかった。

上記活動は、外部評価(第三者評価)で高く評価されたが、全学教員に深く浸透することではなく、約1割5分～2割程度の教員(全教員は約300名)だけが支えているものと推測している。ただ、学長を中心とする大学執行部の支援は強力で、とりわけ予算面での配慮は厚かった(しかし、平成16年4月の国立大学法人化は、さまざまな目標や狙いが存在するとはいえ、最も大きなポイントは予算の削減にあり、従来の和歌山大学におけるFD活動には大きく影響することになった)。

なお、各学部(全部で3学部)に関しては、経済学部が平成14年度に、システム工学部が平成15年度に、教育学部が平成16年度に、それぞれFD委員会を創設したが、活動状況は学部によって大いに異なる。大雑把に言えば、最初、最も消極的であったシステム工学部が大学評価学位授与機構の審査やJABEEなどに起因して現在最も積極的にFD活動を展開しており、教育学部が最も消極的で、経済学部がその中間に位置していると感じられる。

また、基礎教育に関する委員会が平成の初め頃より存在しており、平成9年度より学生による授業評価を実施していた。さらに、公開授業&検討会を支える自発的な教員グループとして「魅力ある大学授業を研究する会」を組織し、研究報告書も3冊作成した。

## 平成16年度のUD(FD)活動と問題点

国立大学法人化に伴い、学内の組織が大幅に変更され(全体的に縮小と感じられる)、FDに関する全学的な組織にも変更が加えられた。FD推進委員会は廃止(存続を主張する学長と担当理事との間で激論が交わされ、現在でも揉めている)され、「授業評価・改善推進部会」が第3常置委員会(従来の大学教育委員会や大学教務委員会に相当する)の下部組織として設置された。この部会は3つの班より構成され、第1班が「公開授業・検討会」班とされ、各学部のFD委員会や「魅力ある大学授業を研究する会」と協力して公開授業&検討会を開催し、新規に「授業参観プロジェクト」を立ち上げるようになった。第2班は「アンケートの実施・フィードバック」班とされ、基礎教育科目における学生による授業評価を実施することになった。第3班は「授業研修・報告会・フォーラム企画実施」班とされ、第5回和歌山大学UD(FD)フォーラム、本学赴任3年までの教員を対象とする新赴任者授業研修会(結局は実施しないことになった)、第2回和歌山大学FD報告会などを開催することとなった。そして、事業報告・大学外部評価のために、従来通り、和歌山大学FD報告書の作成が決定され、各班の取り組みを、とりわけ公開授業&検討会をメインにまとめることになった。

上記の活動の中で、公開授業&検討会は各学部2回ずつの合計6回開催することとなり、本稿執筆時点では3回開催した。いずれも参観者数が伸びず、この点が最大の悩みである。また、新規事業としての授業参観プロジェクトは、京都大学高等教育教授システム開発センター(現在の高等教育研究開発推進センター)で平成12年4月より着手された「大学授業の参加観察プロジェクト」の名称を拝借したものであるが、中味はほとんど公開授業&検討会と同じものとして実施してゆく予定である。従来の公開授業後の検討会では、アルバイトを雇用して発言録を作成してもらおうが、その資金も捻出できなくなってきており、検討会後に電子メールで参観者が感想や意見を送信し、これに講義者が回答するという形態で行うものである。本稿執筆時点ではまだ1回しか実施していないが、検討会よりもむしろ時間と手間がかかって前途多難という印象を持っている。ただ、若干の工夫として、講義者と参観教員だけによる授業参観プロジェクトだけでなく、講義者と参観学生(受講学生)による授業参観プロジェクトも計画している。第2班による基礎教育科目に関する学生による授業評価に関しては、多大なる予算を必要とするという連絡を受けており、果たして必要経費に見合った成果が得られるのか大いに疑問である。また、第2回和歌山大学FD報告会を10月26日午後4時30分(一部の授業を除いて放課後となる)より開催したが、第1回(学長の強い要望により実施した)同様、関係者を除いての教員の参加者は1桁台であり、極めて残念な結果である(しかし、予想通りでもある)。そして、11月9日に実施した第5回和歌山大学UD(FD)フォーラムでは、教員の参加を期待せず、学生の参加を認めたところ、全部で130名を超える参加者となり、今後のFD活動に関しては学生の参加に期待し、FDからUDへという転換を図ることになった。